

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年2月14日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	【既設多核種除去設備苛性ソーダ供給ポンプ(C)吐出側安全弁からのにじみ漏えいについて】 既設多核種除去設備苛性ソーダ供給ポンプ(C)停止中、吐出側安全弁からのにじみ漏えいを確認。 漏えい箇所を確認した結果、上流側フランジであったことから、A、B系により運転は可能。 今後、点検・修理予定。	GⅢ	2月8日
2	【逆浸透膜処理装置処理水移送ポンプ(1A)の吐出圧力計付け根部からのにじみ漏えいについて】 逆浸透膜処理装置処理水移送ポンプ(1A)の吐出圧力計付け根部の養生袋に100cc程度の水溜まりを確認。 線量測定結果より系統水の漏えいが考えられる。 なお、現在はポンプ停止中のため、にじみ漏えいは停止中。 今後、点検・修理予定。	GⅢ	2月4日
3	【雑固体廃棄物焼却設備制御室監視モニタ画面表示の不良について】 雑固体廃棄物焼却設備制御室に設置されている監視モニタの画面が乱れて表示されたため、接続端子の確認および画質調整、再起動を実施するも問題は解消できないため、モニタの故障と判断。 なお、当該モニタの他にも2台のモニタがあり、このモニタで監視が可能であることから、運転操作に影響はない。 今後、当該モニタの交換を実施予定。	GⅢ	2月7日
4	【H8北エリアにある逆浸透膜処理装置濃縮水移送ポンプ(15C)のメカシール部ににじみ漏えいについて】 H8北エリアにある逆浸透膜処理装置濃縮水移送ポンプ(15C)のメカシール部ににじみ漏えいを確認。 H8北エリアにある逆浸透膜処理装置濃縮水移送ポンプ(15C)が修理完了するまでは、同エリアにある逆浸透膜処理装置濃縮水移送ポンプ(15D)を常用として使用する。 今後、メカシールを交換予定。	GⅢ	2月6日
5	【サブドレン浄化設備供給ポンプ(B)軸固着について】 サブドレン設備浄化のため、供給ポンプ(B)を起動したところ、異常を示す警報が発生し、ポンプが停止した。 原因調査のため、当該ポンプのハンドターニングを実施したところ軸が固着していた。 サブドレン設備浄化は、供給ポンプ(A)にて浄化可能なため、問題なし。 今後、ポンプを点検・修理予定。	GⅢ	2月6日
6	【6号機使用済燃料プールのスキマサージタンク水位計の計器精度逸脱について】 6号機使用済燃料プールのスキマサージタンク水位計の点検において、校正前のデータ採取の結果、計器精度を逸脱していることを確認。 その後、計器校正を実施して、計器精度内であることを確認した。 なお、当該計器については「燃料プール浄化系運転性能検査」で使用しているが、検査の判定に使用している計器ではなく、検査中の状態監視のみに使用している計器であることから、検査結果への影響はないと判断。	GⅢ	2月7日
7	【所内共通非常用ディーゼル発電機(A)本体点検口からの油にじみについて】 所内共通非常用ディーゼル発電機(A)の定例試験による運転時に、発電機本体の点検口締付部から油のにじみを確認。 当該部の油にじみ量は微量であり、非常用ディーゼル発電機(A)の運転に影響を与えるものではないと判断。 今後、点検・修理を検討予定。	GⅢ	2月12日
8	【増設多核種除去設備共沈タンク(C)のpH計不具合について】 増設多核種除去設備のpH計(Z92-PHIT126C)の点検において、計器校正を実施したが、計器精度内に調整することができなかった。 当該計器が不良であると考えられるため、今後、交換を実施予定。 なお、他のpH計にて監視可能なため、当該設備への影響はない。	GⅢ	2月12日